

令和6年度第1回群馬県医療費適正化計画に係る懇談会概要

1 開催日時

令和6年11月11日（月）～11月29日（金）

2 場所

書面開催

3 出席者

群馬県医療費適正化計画に係る懇談会委員13名

4 協議事項

第3期群馬県医療費適正化計画の実績に関する評価について

5 配布資料

資料1 第3期医療費適正化計画

資料2 実績評価（事務局案）

別添 意見照会様式

6 議事概要

以下、委員から意見照会のあったものについて、各担当課よりとりまとめて回答したものの概要

○川原委員

喫煙率については、男女で有意な差があるので、今後は男女別で評価すべきである。

○健康長寿社会づくり推進課

喫煙率は、男性が多い状況ですが、妊娠中の喫煙等も課題であることなどから、性別年代別の喫煙の状況を把握しながら取り組みを進めて参ります。評価については、全体の喫煙率の変化で行うとともに、男女別の値についても確認しながら対策を進めて参ります。

○岡田委員

被用者保険者の立場から、特定健康診査、特定保健指導を受ける側の体制づくり（時間や場所の確保が困難な事業所が多数）、事業主の従業員に対する健康管理意識を高めていくことも重要と考えます。

また、小中学生の頃から生活習慣病に対する知識を深め、自己管理はもとより、家族に対する関心を高めることで、健診・指導の実施率の底上げを図る対策等も期待されます。

実施率向上のためには、県民一人ひとりへの広報が不可欠です。ご承知の通り、医療費適正化の重要な点は、重症化する前に医療機関を受診すること、自覚症状の乏しい生

活習慣病に対する危機意識を高め、生活習慣を改善・維持することにあるかと考えます。県全体で、これら健診や健診後の行動に対する意識醸成を高めていくプロセスが、取組や評価・分析、課題へ反映されてくるとよいのではないのでしょうか。

○健康長寿社会づくり推進課

「特定健診・特定保健指導」に関する研修会の開催などを通じて、県民の方に健診を受診することの重要性を認識いただけるよう普及啓発するとともに、健診や保健指導に携わる人材の育成を行っております。引き続き、各保険者等と連携して受診率向上に努めて参ります。

○岡田委員

特定保健指導の現場では、加熱式たばこについてリスク認識が薄い方も見受けられます。紙巻きたばこだけでなく、加熱式たばこにも言及した取組が求められると思います。

○健康長寿社会づくり推進課

加熱式たばこのリスクについても情報提供等を行い、関係者と連携し、禁煙支援、受動喫煙防止、喫煙防止の取り組みを継続して実施して参ります。

○神山委員

メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率は、目標と開きがある。県民の生活・文化の変化を起こす取組が必要と考える。減少率の大きい、岩手県、長野県等の取組の研究をしていただけるとよい。

○健康長寿社会づくり推進課

他自治体における先進的な取組等、引き続き情報収集を行って参ります。

○佐藤委員

予防接種についてはリスクについての説明が不十分に感じられます。接種することのリスクとしないことのリスクを十分に説明すべきであり、児童・学生への教育も必要になるのではと考えます。

○感染症・疾病対策課

予防接種の意義を十分に理解・納得した上で接種を判断できるよう、有効性・安全性に関する正確な情報の発信に努めているところですが、いただいたご意見を踏まえ、更なる情報の発信について工夫するとともに、教育委員会と連携した取り組みを進めて参ります。